

われらが町内 わがグループ

街灯を整備し 明るい町づくり ～有浦町～

大館盆地のほぼ中央部、西側を国道7号線バイパス、北側を私鉄小坂線と接する有浦町内会は、有浦一・二・四・五丁目がひとつになってきた、いわば連合町内会です。



灯籠に彩られた盆踊り

発足したのは昭和35年ですから今年でちょうど満20年。できた当時74世帯だったのが、現在では402世帯と急激に増加。そのため町並には新築された家がたち並び典型的な新興住宅地の風景が眺められます。

しかしながら、以前はほとんどが田んぼであった場所。埋め立てをした土地に家が散在しているため、道幅の狭い所やまだ街灯設備の不十分な箇所があるなど生活環境に関する問題を幾つか抱えています。

とりわけ一番の悩みの種は、空き巣をはじめとする各種犯罪。そこで町ではこれら犯罪の防止のために、大館駅前派出所勤務の佐藤政治さんの指導のもとに、町内の巡回、町内報での呼び掛けなどを繰り返し行っています。

また、これと並行して町内の街灯の整備にも力を入れています。町内会費の中から予算を取り、年間およそ10基の街灯を新設、また故障した場合はすぐに修理をするなど、夜でも安心して歩ける町づくりを、町内みんなの協力で展開しています。

ユニークな活動としては、昭和50年から始めた納涼盆踊り大会が挙げられます。子供たちに自由に描かせた絵で飾りつけた灯籠が、有浦小学校を中心におよそ600メートル並び、その中をぬって踊り興じる盆踊りには、一般市民も飛び入り参加、祭りムードを一段と盛りあげます。町内会長の嶋田三郎さんは、「子供たちには、故郷の素晴らしい思い出を、大人たちにはうちとけてお付き合いをしてもら



街灯の点検も自分たちの手で

って町内の和をつくりだしてほしい、そんな願いで始めました。昨年は、待望の婦人部が結成されました。今年は是非老人クラブをつくりたいと考えています。まだまだその活動は軌道に乗っていると、言い難いものの、意欲は満々です。」と語ってくれました。

町内の中に、有浦小学校、東中学校などがある、いわゆる文教地区でもあり、また交通の便にも恵まれているため、まだしばらくは「新入りさん」も後を絶たない様子。それだけに、荒けずりな面がある反面、将来へ向けてのいろいろな魅力を秘めた町内でもあるといえます。



480人の力走「山田記念ロードレース」—4月29日



「三鶏展覧会」—5月3日

あなたが写っていませんか？
希望者へキャビネサインの写真を
プレゼントします。
総務課秘書広報係へ
〒49-3111内線2508



「ミス観光大館撮影会」—5月3日

ふるさとの 文化財

No. 4

天然記念物
「声良鶏」昭和12年12月21日指定
所在地・秋田県北部
管理者・秋田県



カラッと晴れた五月の朝、親鶏に連れられ日なたに写る季節です。すがすがしい目に写るヒヨコの姿が、すて、今回は天然記念物「声良鶏」についてお伝えします。

当市をはじめ、東北部一帯で飼われている声良鶏は、四国の東天紅、新潟の唐丸とともに、わが国三大長鳴鶏に数えられ、昭和十二年に国の天然記念物に指定され、日本の鶏種の至宝とされています。

その鳴き声は、太く長く壮健、優雅、流ちょうな音律で、三大長鳴鶏のうちでも最も優れています。雄鶏は早晩から願いはじめ、日中は時刻正しく願い、その願い方は「出し」

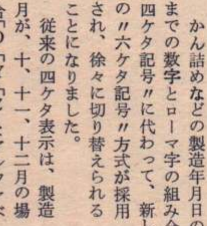
「張り」「引き」の三調子に分れていて、太く澄んだ低音で静かに「ゴッコ、ゴオー」と緩やかなひとつの山を描くように謳って静かに終わります。時間は十一秒から十五秒位で、まれに二十秒も謳う鶏もあるとのこと。

体型は、くちばしが太く、頭に三冠冠を頂き、眼は大きく深く、クビは太く長いもので、咽喉部は特に発達して袋状になって下に垂れ、また、脚は三列の脚筒がある長いもので、背は幅広く、全体にシャモの体型に似ています。胸を張り、尾を長く引いて威風堂々と四脚を添って邁歩する姿には、古武士的な男性美が漂っています。

この声良鶏は、今から二百四十年前頃、越後から日本海を船で運ばれた「唐丸」が、さらには川舟で米代川を上り、その流域の地鶏との交配によって、この地方の人々の好みにあったものに改良され、繁殖したと伝えられています。その後、明治二十年頃、声を太くする目的で洋種「フアラ」の血を入れたことで、体型も大きくなり、脚も長くなったといわれています。

現在、この声良鶏を含め、比内鶏、金八鶏の秋田三鶏保存会が設立されており、市内で約八百羽の声良鶏が愛好家の方たちに大事に飼われています。また、春と秋の年二回はその体型や、鳴き声を競う展覧会が開催されています。

かん詰め等の製造年月日がわかりやすくなりました



かん詰めなどの製造年月日の表示が、これまでの数字とローマ字の組み合わせによる四ケタ記号に代わって、新しく数字ばかりの六ケタ記号方式が採用され、徐々に切り替えられることになりました。

従来の四ケタ表示は、製造月が、十、十一、十二月の場合「O」「Y」「Z」とアルファベ

消費者の窓

従来の四ケタの表示は、昭和五十五年三月以降、徐々に六ケタ表示に移行しますが、メーカー側の機械設備の切り替えなどに時間がかかりますので、しばらくの間は四ケタ表示と六ケタ表示が併用されることとなります。